

<ご挨拶>

『 神さまは見ておられます 』

大阪東南キリスト教会牧師 古川富也

前回の「愛の家」ニュース20号に載っていた金鐘賢牧師の夫人(サモニン)、姜貞淑夫人の文章『最も小さい者を愛するイエス』は、今まで長くお付き合いしていたわたしにも、はじめて聞いた言葉でした。皆さまももう一度お読みくださると、わたしの言葉など書く必要がなくなるほど感動いたします。「愛の家」が形づくられるまでの苦しみが行間になじみでていました。

韓国からの宣教師として来日されて一年で赴任した教会がなくなるという苦難に立たされ、お二人が泣きながら、み言葉と祈りに専念する中で何を為すべきかが示されたのが、釜ヶ崎でした。主イエスさまに倣って生きよう、最も小さい者とはだれなのかを探して、見出したのが韓国人日雇い労働者で、病院を強制退院というかたちで放り出された人でした。この人と共に家族としての生活が始まり、それがついに10人家族になり奇跡が起こります。広い家が与えられました。「浪速教会」が誕生したのです。現在の会堂が与えられるにはサモニンの第2号を読むと泣きながら祈った祈りが結実したいきさつを聞くことができるでしょう。

滋賀県に「知能に重い障害を持つ人たちの家」止揚学園がありますが、ここの風呂場の壁に書かれているみ言葉は「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」(2 コリント4章18節)とあります。わたしたちの働きは政府からの援助もなく、徒労ではないかと思われるときがあっても、神さまは見ておられます。必ず「なる」のです。Ω

<ご挨拶>

「この世で最も低くなられた方々のために」

在日大韓・関西地方会副会長 京都教会牧師 朴龍洙

「朝にはどうか、聞かせてください。あなたの慈しみについて。あなたにわたしは依り頼みます。行くべき道を教えてください。あなたに、わたしの魂は憧れているのです。」 詩篇143:8

「愛の家」の働きと金鐘賢先生ご家族を心から尊敬し祝福します。金先生が在日大韓基督教会の宣教師加入試験を受けられた日に、私も同じ日に牧師試験を受けました。最初に金先生に会ったのがその日でした。その時まではあまり日本語も出来なかったと思いましたが、金先生は会う度に日本語が上達されて行きました。きっと神様が金先生に日本での働きの使命を与えて下さったために、その神から与えられた使命感が日本語を上達させたと確信します。

私たちは声を聞くことが必要であります。まず自分自身の内面の声を聞かなければなりません。第二に、隣人の声を聞かなければなりません。第三に、社会のこえを聞かなければなりません。そして何よりも神様の声尾を聞かなければなりません。

自分の内面の声を聞くと、人生を正しく生きることが出来ます。隣人の声を聞くと、良い人間関係を持つことが出来ます。社会の声を聞くと、良い社会を作り上げて行くことが出来ます。しかし、これら三つの声を全部聞いたとしても、神様の声を聞くことが出来なければ、実際は何も出来ません。

金先生は隣人の声を聞き、社会の声を聞き、そして神様の声を聞き、「愛の家」建設のビジョンが与えられました。この世で最も低くなられた貴い方々のために働いておられます。時々関西地方会の行事に参加される「愛の家」のメンバーたちの姿を拝見する時には、金先生ご夫妻の主のための愛の労苦と、メンバーたちの素直で主に従順な謙遜な姿勢に心を打たれます。

「愛の家」の活動が、实际的支援また霊的な信仰成長の両面において着実に実られて行く姿を拝見し神様に栄光を帰します。これらは皆、支えて下さる方々の貴い祈りや愛の支援によってなされた実であると信じます。どうか、今後とも「愛の家」と共に、最も低くなられた方々に仕える祝福が皆さんにも与えられますようにお祈り申し上げます。多くの方々が「愛の家」の働きを通して主が備えて下さった新しい人生を始めることが出来るようにお祈りと愛の支援をよろしくお願いします。

「愛の家」の風景

www.ainoie.org



① ソンソラム コンサート/송솔나무콘서트 9/29



②2011年聖書勉強会 성경공부반



③教会学校子供遠足 교회학교어린이 소풍



④2011 夏期研修会 여름수련회



⑤ 夜回り 야간순회 급식



⑥金曜炊出し・衣類分配—金曜 무료급식준비・의류분배



⑦. 木曜伝道集会 朴栄子牧師



全聖三牧師



金景淑牧師



⑧主日午後礼拝—大邱宣教チーム

「愛の家」近況報告

《宣教チームの訪問》2p 写真⑧

今夏も恒例の宣教チームが来教しました。大邱三徳・敬拝学校宣教チーム(9名)と釜山スヨン口宣教チーム(15名)の2チームです。この2チームは毎年、来教するので半数の人が2〜3回以上の人が多く、「愛の家」の活動を心に留め、来訪する度に日本の弱い人々を愛し宣教活動や奉仕をしてくれます。又、チームは何ヶ月も前から私達の為に讃美・ダンスを準備し、失業者・野宿者に向け伝道集会を行ってくれます。この野宿者達に対しての深い愛と強い信仰心を持って奉仕してくれしますので、集会に参加した人々がみな恵みに満たされ喜びながら帰って行く姿を見ると、私達も大変感動を受け、「来年も宣教チームを送って下さる様に」と神様に切に祈っています。

《特別演奏会(ソン・ソラム氏)》2p 写真①

9月29日(木)、教会で特別演奏会が行われました。この日は通常の伝道集会ではなく、「音楽と証し」を持ってイエス様の愛を伝えようとの試みでした。演奏して下さったのは、世界的にも有名な韓国を代表するフルート奏者のソン・ソラム氏です。ソラム氏はドラマの主題歌演奏やコンサート活動の傍ら、音楽を通して世界各地で幅広く演奏活動され、特に各国の被災地の避難所・難民地区等を巡回公演しながらイエス・キリストの愛と恵みを伝道されています。今回も東日本大震災の各避難所を訪問され、大阪でのチャリティ演奏会を終えられ、神様の導きにより私達の浪速教会を訪れてくださいました。ソラム氏のフルート演奏の美しい旋律と心に染み入る音色を聞きながら多くの参加者が涙を流し感動していました。この感動を持ってまだ無信仰の人がイエス様を信じる人が多く現われます様、心から祈っています。

《2011年度信徒修養会》2p 写真④

今年も8月下旬に3日間の日程で兵庫県の氷上祈禱院で修養会を行いました。今年の修養会は教会学校の子供達と合同で行いましたが、子供達は田畑や山々に囲まれたこの祈禱院が始めてで、大自然の中での修養会を満喫し大変恵まれていました。今回は子供達と共に、毎年恒例の開会礼拝から始まり、午後の祈禱会、夜の祈禱会、そして、早天祈禱会、分担祈禱会を行いました。祈禱会では姜師母の讃美の導きのもと、子供達と大人が一緒になって歌い・踊り、又、金鐘賢牧師任の導きにより御言葉を聞き、共に祈り、主と交わりの時を持つ事が出来、大変恵まれました。そして、祈禱会の合間には田畑を子供達と散策し、カエルと戯れ、夕食時は野外バーベキューや花火大会、スイカ割り等を楽しみ夜は皆で温泉に浸たり日頃の疲れを癒していました。

《聖書勉強会・洗礼者教育》2p 写真②

今年も恒例の「聖書勉強会」と「洗礼者教育」が行われました。「聖書勉強会」は毎木曜日に10回に渡り初級「新しい主の家族の道」講師—姜師母)と中級「讃美と敬拝」講師—金牧師任)の2クラスに分かれ行われました。全員が時間前に着席しテキストを片手に予習をし、講義中は講師の話をよく聞き、講義の内容を自分のものとする為、熱心に受講していました。そして、全員が欠席する事なく卒業する事が出来ました。

「洗礼者教育」も毎木曜日に行われ、今回は5人が参加し行われました。中には重い病を持ちながらも40分間の道のりを歩いてこれ人、又、今迄は洗礼を受ける決心がつかず迷っていた人が今回は自ら「洗礼を受けます」と強い意志を持って教育に望まれている人もいました。

《木曜伝道集会・日曜伝道集会》2p 写真⑦⑧

木曜・日曜集会には100名近くの失業・野宿者の方々が来られます。木曜集会ではAM8:30に入場し、9:00からは支援者から頂いたコーヒーを飲みながらキリスト関係のビデオを鑑賞やシャワーを使用したりしてリラックスされています。礼拝の時間に成ると姜貞淑師母の素晴らしい歌声の導きにより賛美を合唱し、それから礼拝へと進み、毎週、各先生方が説教の奉仕をして下さいます。奉仕して下さる先生方は当教会の金鐘賢牧師任を始め朴栄子牧師任(豊中第一復興教会)・金景淑牧師任(ホザナ教会)・全聖三牧師任(布施教会)・バス宣教師(賛美の奉仕)の各先生です。多くの兄弟達が各先生方の恵み溢れる御言葉を聞き感動を覚えイエス様を信じる様に祈ります。又、主日礼拝集会ではPM1:00から金鐘賢牧師任が奉仕されています。今年から、吉見真希姉妹が讃美を導いています。真希姉妹は持ち前の明るい笑顔と優しい語りで参加者の心を掴み、沈んだ心を讃美を通して笑顔に変えてくれています。そして、礼拝後は支援者からの頂いた食材で調理された食事が配布され、参加者が共に交わりながら食事しておられます。尚、日曜日が井物で木曜日がランチ形式のメニューに成っています。帰る時は、「有難う御座いました。」と声を掛けてくださいます。これも支援して下さった皆様へのお礼と私達は思っています。

《金曜炊き出し会・衣類配布会》2p 写真⑥

毎週、金曜日には野外(西成公園)でのジャンボお握りと味噌汁を配布する炊き出し会を行っています。その日は早朝より準備にかかりお米(平均45kg)を使用し、ジャンボお握りを毎回250個程を奉仕者の皆様(12〜15人)と共に作ります。又、支援して下さったお米で作る時は支援者のお名前を発表し、感謝しながら握っています。作業終了後は全員で賛美歌を唱和し炊き出しの場所へ出向きます。すると、野宿している兄弟達はすでに並んで待っています。又、炊き出し会と同時に皆様から頂いた衣類を配布する週もあります。寒さが厳しい時などは、お握りの配布前に衣類配布場所に行き衣類を求めている人もいます。自分の求めたい物を手に入れると満面の笑顔で私達に御礼を言ってくれます。本当に支援者の方々に心から感謝します。此れからも暖かいご支援を御願います。

《「教会学校」大好きな子供達!》2p 写真③

今回も教会学校の子供達を紹介します。今年は元気一杯の子供達が12名になりました。主日礼拝では姜貞淑師母(牧師婦人)の指導の元に、一人一人が大きな声で賛美歌を歌い、讃美に併せてダンスをし、暗唱句を一生懸命に暗記し、御言葉を真剣に聞き、自分の為、友達の為に祈っています。小中学生をはじめ3〜4才の子供達が小さい手を合わせて心より祈っている姿を見ると、私達が反対に恵みと勇気を貰っている様な気がします。そして、この夏頃から、中学生2人が水曜・金曜日に行われる夜の礼拝にも参加しています。当教会の子供達は「イエス様の御旨」と「愛の家」の精神をしっかりと受けとめ日曜以外でも教会に来て、病氣や弱い人達のために優しく思い遣りを持って奉仕してくれています。例えば、前号で紹介した奉仕を始め、水槽(金魚)の清掃をはじめ、野宿生活者・失業者に配布する為の食料品(支援者から頂いたパン・お菓子類)等の袋詰めの作業を積極的に楽しみながら奉仕しています。これからも子供達がイエス様の教えを良く守り、命の大切さを知り、立派に成長し次世代の浪速教会の中心となる様に私達信徒一同は心より祈っております。

奉仕者の声 連載①

奉仕に思う イエス様の愛と恵みを受けて - (浪速教会信徒 ボランティア) 高山加古六



私は昨年の12月19日に、他の三人の兄弟と一緒に洗礼を受けさせて頂きました。よもや66才になって、クリスチャンになろうとは・・・でも今は、至福で一杯であります。何故なら、イエス様に出会ってから今

だかつてない史上最高のビッグなプレゼント

「永遠の命」を神様から頂いたからです。わが人生の最終章にイエス様に出会い、この荣誉に与り実に有り難い事です。今、私自身今迄、犯してきた数々の罪・咎を許して頂き、神様から「新たな命と永遠の命神」を頂いた喜びを噛み締め、幸せを満喫している今日此の頃です。さて、ここで本題に入る前に私の生い立ちとイエス様を信じる迄の波乱万丈の出来事を少し証しておきたいと思ひます。

私の故郷は嘗て『新婚旅行のメッカ』と言われていた宮崎です。紺碧ならぬ、青々としたスカイブルーの空、そして眼下には泰然自若静かに洋々と横たわる日向灘、辺りを見渡せば山紫水明の風光明媚な景色、又 大自然が織りなす空と海の色彩豊かなハーモニーとコントラストは正に「絶妙!!」と言う以外の何物でもありません。そして、豊かな海の幸、山の幸の滋味を頂戴し、この大自然の環境の中で育まれた幼少年時代でした。これはまさに、天地万物を創造され、森羅万象そして生き捷生けるものをお創りになられた神様の「御業」そのものと言えるだろう。しかし、この九月に法事で帰郷して見ると五年前の台風と大水害に見まわれ、子供の頃遊んだ川、海、山がすっかり千変万化を呈していて大変驚きました。又、私の生家も多分に漏れず屋敷の一部と、庭先のみかん、柿、栗、金柑、ポン柑、等の柑橘類の古木が根こそぎ流されていて、7才上の兄から電話で状況を聴かされていたが大変ショックでした。何故なら、私の生家は江戸時代初期からの陣屋(殿様の遠征先の宿)と川の関所(昔の役所)でありました。屋敷には蔵があり、その中には調度品、剣、衣類、巻物等の様々な物が収められていて、子供の頃はよく隠れてチャンバラごっこを真似事をしたものでした。でも今はその思い出と流される前のこの生家で母(享年95歳)の介護を3男の兄の号令の下でやって来た事ぐらいしか残っていません。現在の家は今の兄が現代風に建て直して復興し

てくれていましたが、この費用の一部をここ西成で「うたぐれて」いた中でも微力ながらも何とかして提供して来ました。その自然に恵まれた宮崎の生家を19歳で東京へと飛び出し、東京では新聞配達しながら入学金を借用し、語学専門学校に入学しインドネシア語専攻でアラビア語を7年間学んでいました。その内、親の死去に伴い宮崎へ帰郷しなければ成らなくなり、帰郷してからは隣街の地方新聞紙の記者になり記者生活を6年間やりました。その間、19歳上の長男が3回目(2回落選)の市長選出馬が決まり、私も立場上、社を休職しペンをマイクに変えて全力を尽くし応援するも善戦虚しく落選という結果になりました。負け戦はいずれの時代も哀れです。家族を始め、周りの人達に心身とも深い禍根を残し、当然先祖から代々受け継いだ財産も選挙に使い果たし、ゼロとなった次第です。その後、私も職場に復帰しましたが、復帰後、私と幼馴染みとの結婚話が持ち上がり、「X-mas イブの日に結納を交わし年明けに挙式」と言う処まで話が進んでいたのですが、又しても没年の歳末を迎え、新聞の特集号を組む等の取材で東奔西走し、徹夜が続いていたある深夜、あと数百メートルで自宅と言う所で、居眠り運転による交通事故を起こしてしまいました。その時、兄が大金350万円を示談金として相手方に払ってくれたのですが、今もその時の金は返す事が出来ないままです。勿論、幼馴染みとの結婚は破談になったのは言うまでもありません。身体が弱かった幼馴染みは3年後に他界してしまい、私にとっては大変ショックでした。唯一、不幸中の幸いであったのは4mの崖側のガードレールが事故の二日前に取り付けられた事でした。そのガードレールが無かったらと思うとゾ〜!とします。此の後私のピンチが続きますが次号での掲載としたいと思います。(次号に連載)

奉仕者の声 連載②

『最も小さい者を愛するイエス』Ⅱ

(浪速教会 牧師婦人) 姜 貞 淑



1997年9月8日、関西地方会の牧師、長老、信徒さんたちを招いて開所礼拝をささげました。私たちは教会らしい教会堂が与えられた喜びと感謝で毎日が夢のようでした。韓国人の日雇い労働者

伝道を始めました。毎朝5時頃、西成労働センターには仕

事を求めにくる日雇い労働者でいっぱいになります。その時間を利用して伝道しようと思い、金牧師と私は朝4時に起きて暖かいコーヒーと人参茶をポットに入れて、自転車の前と後ろにそれを積んで西成労働センターまで行き、伝道の紙と一緒に配りました。韓国人の労働者たちを伝道するつもりでしたが、あっという間に100人ぐらいの人が並んでしまいました。ほとんどが日本人のホームレスの方々でした。ポット5つ分ぐらいのコーヒーはあっという間になくなり、もらえずに帰る人もいました。心が痛くて、お金のゆるす限り量を増やして伝道した結果、何人かの韓国人労働者と出会い、その人たちが教会にくるようになり、新しい教会堂で共に礼拝をささげました。そんな中、自転車でたくさんのポットを乗せて移動するのは、とても大変で危険だったので、「車をください。」と神様に祈ると、後援者の献金を通して車をも与えてくださいました。本当に奇跡の連続でした。

そんなある日、私たちに家を貸してくださった伝道師さんが訪ねて来られ、私たちの働きを見て助言をしてくれました。「ホームレスの方にはコーヒーよりもご飯とみそ汁を配ったほうがいいと思います。」私たちはその助言を受け入れ、その時からおにぎりともそ汁を配るようになりました。最初は精一杯作っても50個ぐらいしかできず、それを持って行って夜、道ばたで寝ている人たちに1個1個配りました。毎週金曜日の夜に配っていると、いつの間にかホームレスの方々の間で知れ渡り、ある金曜日には100人以上の人が並んで私たちを待っていました。おにぎりは50個しかなかったので、どうすればいいのか本当に困りました。前の人から配っていくしかないのですが、その日も残りの約50人は悲しい顔で帰っていききました。持っているお金を全部出してお米と味噌を買って少しずつ量を増やしましたがそれでも行く度に足りませんでした。神様に祈ると、不思議なことに支援金が入ったり、知り合いの方からお米をいただいたりして、一番多かったときには250人に配ることができました。日本橋の電気街に250人が並ぶと、商店街の人々から苦情が出るようになり、警察がきて、ほかの場所で配るように注意されました。そして信徒たちにどこで配ればいいのか相談してみると、信徒の一人が西成公園で配ることを提案しました。実際にそこに行ってみると、200人以上のホームレスの方々がテントを張って生活していて、びっくりしました。そして一軒一軒まわりながら、おにぎりともそ汁と伝道の紙を配りました。「イエス様を信じてください。」と伝道しながら1年以上その公園をまわりましたが、教会には一人も来ませんでした。西成公園から桜川の教会までは歩

いて30分以上かかる距離なので、誰も来ないのも無理はありませんでした。ホームレスの方々に肉の糧を与えるのも必要ですが、それよりも大事な霊の糧を与えたくて私たちはどうすればいいか考えました。西成公園の人たちを伝道するためには、その近くに引越すしかないと思い、また祈り始めました。するとある日、西成公園の近くの希望教会の牧師夫妻が私たちを訪ねてきてこう言いました。「実は私たち希望教会はもうすぐあびこの方に引っ越します。自分たちの手でリフォームした愛情のこもった教会を誰かに引き渡したいと思って祈っていた時、毎週となりの西成公園まで来て伝道している金先生のことを思い出し、相談にきました。」私たちはその話を聞いたとき、神様の答えだと信じ、感謝しました。そして、私たちも北津守に教会堂を与えてくださいと祈っていたことを話すと、牧師夫妻も驚かれていました。神様のすばらしい導きでした。

1999年12月、私たちが祈っていたとおり、桜川から北津守の西成公園の近くの教会堂に移転しました。西成公園のホームレスの方々に「3月から近くの教会で礼拝と炊出しがあるので、浪速教会にきてください。」と伝道しました。教会での最初の伝道集会に来られたホームレスの方は17人でした。予想よりは少なかったのですが、来られた方々と共に礼拝をささげ、心を込めて食事を配りました。すると、次の伝道集会には30人、その次は60人、その次は100人とどんどん増え、教会堂が狭くなるほどでした。毎週伝道集会の日になると、ホームレスの方々は早くから来て、教会の前に並び、礼拝の時間を待ちました。町の真ん中にある教会の前にたくさんのホームレスが並んでいる姿をみた町の人たちはびっくりぎょうてん！ある日、町の代表10人ぐらいの人々が教会にきて、金牧師にこの町から出て行くように強く言いました。私たちも予想していたことで、町の人々の理解を得るために伝道集会を始める3ヶ月前から祈っていたので、神様が力を与えてくださり、恐れず町の人々と話し合いました。金牧師は町に迷惑をかけないことを約束し、整理券を公園で配ることにして伝道集会を続けることができました。

毎週木曜日の伝道集会と主日2部礼拝は教会で、金曜日には西成公園で炊き出しを行いました。週3回の炊き出しにはたくさんのお米と副食費が必要だったので、人数が増えると共に経済的な問題にぶつかりました。信徒たちと相談すると、ある人がアルミ缶収集を提案してくれました。教会の前にアルミ缶収集の場所をもうけ、集

会の日にはたくさんのアルミ缶が集まりました。そのアルミ缶を売ると、少しは助かりましたが、経済的な苦しみはまだ続きました。悩んだあげく、金牧師はこの活動をたくさんの人に知らせて、支援者を募集することにしました。「一口3000円、すなわちお米10kgの支援をお願いします。」と、まず関西地方会の諸教会に知らせました。そんなある日、木曜伝道集会に、どう見てもホームレスではない紳士の方が訪ねて来られました。集会後に話してみると、日本キリスト教会北教会の森田先生でした。近くの障害者施設を訪問したついでに浪速教会を見つけて入ったとおっしゃいました。そしてこう言われました。「実は私もこんな働きをしたいと思っていました。今日ここですばらしい働きが行われているのを見て、本当に感動しました。わたしにできることがあるなら、力の限り支援します。」

その時から森田先生は毎月5口、すなわちお米50kgを支援してください、とても助かりました。それだけではなく、ご自身が所属しておられる日本キリスト教会の諸教会にも支援をお願いしていただきました。何のつながりもなかった森田先生を浪速教会の支援者としてめぐり合わせてくださった神様の不思議なる恵みに感謝でいっぱいです。今も先生は愛の家運営委員長として積極的に支援してくださっており、また北教会も月2回、中ノ島公園でホームレスの方々のために炊き出しを行っておられます。(次号に連載)

《夜間パトロール》2p 写真⑤

今年も路上生活をしている人達の為の夜間パトロールが11月から始まりました。このパトロールは毎週金曜の夜、8時半からお握り・味噌汁・毛布・カイロ・衣類等を車に乗せ、所定の場所に行きます。すると、「ありがとう、助かるよ。」と、暗く沈んでいた顔が一変して明るい顔になり、弾んだ感謝の声が続きます。この厳しい不況の折、今は50人分のお握り・味噌汁しか配布できません。それでも時々人数が増えて、足りなくなる時があります。その折は心が痛むのを覚えます。又、これからは寒さが厳しくなる時期ですので、健康状態のチェックもしつつ、どうしても路上でその晩に眠れない程、衰弱している兄弟がいたら「愛の家」の宿舎を提供する場合もあります。尚、配布している毛布・カイロ・衣類等は全国の多くの支援者から送って頂いた品物です、大変感謝致しております。これからも、暖かい御支援をお願いします。



「愛の家」会計決算書(2011.4～2011. 11)

収入	11 予算	決 算	
定期後援会	1,300,000	480,000	
一般後援会	1,500,000	571,018	
クリスマス献金	1,000,000	0	
食事献金	2,900,000	1,417,100	
総会支援金	500,000	0	
御米献金	400,000	125,911	
小計	7,600,000	2,594,029	
繰越金	257,404	809,392	
合計	7,857,404	3,403,421	
支出			
事務・備品費	630,000	166,755	
交通費	100,000	25,500	
車両維持費	300,000	66,690	
奉仕者支援金	900,000	429,000	
研修費	150,000		
御米代	1,400,000	630,820	
副食費	2,600,000	1,635,880	
会議費	30,000	15,981	
修理施設費	50,000	1,860	
愛の家建築積立金	1,500,000		
救済費	50,000		
予備費	147,404	30,000	
小計	7,857,404	3,002,486	
繰越金		400,935	
合計	7,857,404	3,403,421	

「愛の家」建築会計決算書(2011.4～2011. 11)

収入	11 予算	決 算	備考
建築献金(国内)	3,000,000	2,811,702	
建築献金(海外)	3,000,000	125,000	
アルミ集会献金	200,000	124,559	
教会建築積立金	300,000	0	
愛の家築積立金	1,500,000	0	
地方会支援金	600,000	400,000	
福祉部屋献金	3,400,000	2,200,000	
小計	12,000,000	5,661,261	
繰越金	6,164,792	6,164,792	
収入合計	18,164,792	11,826,053	
支出			
銀行融資返済金	8,500,000	2,710,336	
エコフ融資返済金	2,100,000	2,030,000	
リフォーム工事代	500,000	1,933,663	
募金交通費	400,000	0	
諸経費	200,000	0	
教会債返済金		3,856,840	
小計	11,700,000	10,530,839	
繰越金	6,464,792	1,295,214	
合計	18,164,792	11,826,053	

負債現況(2011年12月1日現在)

教会堂「愛の家」センター建築	
銀行融資金	19,232,000 円
エコフ融資返済金	2,000,000 円
教会債	0 円
合計	21,232,000 円



路上生活者支援のための クリスマス献金のお願い



主の御名を心から賛美いたします。

日頃より、浪速教会「愛の家」の事業(路上生活者支援活動)に格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

今年も皆様からのご支援を頂、毎週4回の集会炊き出しを全うすることができ心より感謝致します。今年は、3月11日東日本大震災が起こり、みんなで東日本被災者を支えるため力を合わせました。私達「愛の家」も被災地へボランティアを送ったり義援金を送ったりして痛みを分かち合うため努力しました。

しかし、東日本も大変ですが地域の路上生活者への支援活動も大切であるゆえに私達「愛の家」は、普段通り支援活動を続けて来ました。最近定期後援者、一般後援者が少なくなっているのが現状であります。幸い相変わらず私達「愛の家」の活動を覚えボランティア活動に参加したり、衣類食材物資などを送ったり支援金を送ったりして支えて下さる支援者の皆さんのお陰で愛の家は守られています。

現在、私たち「愛の家」炊出しは週4回実施しております。金曜炊出しには約150～250人が来られ、日曜礼拝や木曜集会にも約100人が来られます。また、夜回りの場所へ来られる人も増えています。

冬本番を迎え、冷え込みは益々厳しくなり、野宿生活者の命と健康を支えるための支援活動が切実となっております。私たち「愛の家」が、野宿生活者宣教や支援活動を今後も続けられるよう、皆様からの御支援をお願い申し上げます。

現在、毎週炊出し費用として69,000円が支出されています。

(お米130kg・39,000円、副食費30,000円、合計69,000円)

イエス・キリストのお誕生を祝うクリスマスを迎え、「愛の家」野宿生活者支援活動のためのクリスマス献金をお願い致します。

「愛の家」事業：金曜炊き出し、木曜集会と食事、日曜礼拝と食事、散髪奉仕、共同生活、聖書勉強会、福祉相談、福祉館運営、冬季夜間パトロール、生活用品収集分配

2011年度クリスマス献金目標額：100万円

郵便振替： 00930-0-299392 在日大韓基督教会 浪速教会

送り先：〒557-0061 大阪市西成区北津守3-2-3浪速教会「愛の家」

Tel 06-6561-4712、6562-0109、Fax 6561-4709

E-mail:ainoie@msn.com ホームページ：www.ainoie.org

2011年12月



在日大韓基督教会 浪速教会・「愛の家」

共同委員長	森田 幸男	牧師
共同委員長	金 安 弘	牧師
総 務	金 鐘 賢	牧師

献金者お名前(敬称略・順不同)

(2011年4月～2011年11月)

定期後援金: 関西地方会社会部、大阪教会女性会、大阪北部教会女性会、横浜長老教会、石井洋二、豊中第一復興教会、金鐘賢、川島美恵子、許清子、森元孝・金英姫、大阪東南教会、古川富也・知恵子、大垣教会、山本覚、嶺洋一、米田孝太郎・ちさと、野津道代、匿名

一般後援金: KCCJ 総会、大阪築港教会、韓国シオンの光教会宣教チーム、関西地方教会女性連合会社会部、関西地方教会女性連合会、福岡教会、南大阪教会、豊中第一復興教会、大阪朝禱会、韓国大田永楽教会宣教チーム、韓国テグ三徳教会宣教チーム、韓国オサン長老教会宣教チーム、韓国済州城内教会、韓国釜山スヨン口教会、韓国テグ讚美・敬拝学校、韓国飢餓対策、韓国中原京教会、洲本チャペル、神戸日韓交流会、阿武山福音自由教会、大阪北教会、南浦和教会、穂別キリスト教会、大阪教会有志、朴栄子、崔銀英、上田一郎、李順姫、高山加古六、全聖三・咸美羅、李光世、野津道代、茅ヶ崎東教会婦人会、金君江、金玉礼、金景淑、金鐘賢、伊藤、李清一、木村敏子、峰洋一、山本覚、津久井努、金ヤンニム、河正子、中崎良美、森優紀慶、朴愛仙、許伯基、朴小善、澄川満喜子、シオン合唱団、金明姫、ミオ・コーポレーション、匿名

建築献金: 関西地方会、金鐘賢・姜貞淑、金斗賢・善栄、大木正典、岡野正人、竹内清、久保賢太郎、山下博行、井上豊、宮澤玲子、森田幸男・孝子、山本覚、小松満、石和怜、吉見真希、池本恵、韓国バドサン教会、韓国ナムム教会、韓国テグ三徳教会宣教チーム、韓国オサン長老教会宣教チーム、李ジョンフン、韓国テグ讚美・敬拝学校、金ユンジョン、ノグムスル、韓国スヨン口教会、匿名、

お米、お米献金: 大阪北教会 関西フードバンク、布施教会青年会、洲本チャペル、池本恵、古川富也、六信みどり、田部郁彦、李元泳、崔愛蘭、小林勝、宮澤玲子、島内敏子、米田孝太郎・ちさと、神戸布引教会壮年会、岩島斐子、金幸子、齋藤勇男、匿名

食材: 関西フードバンク、久保賢太郎、匿名

衣類、生活用品: グッド・サマリタン・チャーチ、豊中第一復興教会、永和教会、六信みどり、京都教会、京都南部教会、阿武山福音自由教会、川島美恵子、許清子、田部郁彦、平田健二、匿名



「愛の家」センター 建築ニュース



教会堂及び「愛の家」センターが建てられ今年で5年目になりました。偶に昔旧教会「愛の家」での炊出しを行う時の

苦労話を交わしなから昔のことを思い起こします。旧教会は2階建ての倉庫を改造した建物でした。2階で集会を持つと20坪の会堂に100人、1階にも20人が集まりました。集会後の食事のため重たいご飯釜やスープの鍋を持ち急な階段を何度も上り下りしました。子供達が階段から落ちて転がったことはありましたが食事の運びの時は無事でした。昔と比べれば今は集会も1階で厨房も1階でとても便利になりました。

「愛の家」センター建築後最初5000万円の借金を抱えていて果たして返せるか心配もありました。しかし5年目を迎えて負債は2000万円まで減りました。

今年は教会債約390万円を全額返済しました。不思議に献金者が現れ予想より早く返すことができました。

「愛の家」建築負債現状 (2011年12月1日現在)

負債	21,232,000 円
－残金	1,295,214 円
実際の負債	19,936,786 円

今年も多くの方々が建築募金に協力してくださいました。心より感謝致します。相変らず集会に参加する路上生活者の皆さんもアルミ缶献金に協力して下さいました。

私たちは、2012年度までは、建築負債の返済が終わる軽い気持ちで「愛の家」の「愛の業」へ取り組むことが出来るように願っております。皆様のご協力お願いいたします。

皆の力で
愛の家センターを共に支えましょう!!

国内募金目標額: 1,000 万円

☆建築献金お願い致します。

- ①年1口5000円以上 ②毎月1口1000円以上
- ③各教会、団体、組織別の建築献金
- ④遺産の寄付

発行責任者 金鐘賢・森優紀慶
発行所 「愛の家」広報部
〒557-0061 大阪市西成区北津守3-2-3
浪速教会「愛の家」内
TEL 06-6561-4712(教会)
FAX 06-6561-4709(教会)
E-mail: ainoie@msn.com
ホームページ: www.ainoie.org
郵便振替口座: 在日大韓基督教会浪速教会
00930-0-299392